

NPOの組織転換

変革に備える

組織の基盤強化と独創的組織運営とは

DIRECTOR・TAKAYUKI HIRAO
平尾剛之

【論題】
孤高のガバナンス&マネジメント
理事会・事務局の役割と中長期ビジョン
非営利組織の評価とは
組織の意思決定とリスクマネジメント
世代交代における苦悩と希望

MASATAKA FUKAO
深尾昌峰

HIDENORI SUGIOKA
杉岡秀紀

MASATO NOIKE
野池雅人

SHINGO OGAWA

小川真吾

YUMI NAKAMURA

中村有美

MASATAKA FUKAO

深尾昌峰

TOMOE ODANI

小谷智恵

TAKESHI KATO

加藤武士

MAIKO NAKAYAMA

中山麻衣子

HIROKI SHIGENO

滋野浩毅

HIDENORI SUGIOKA

杉岡秀紀

TAKAYUKI HIRAO

平尾剛之

一九九八年二月一日に特定非営利活動促進法（通称NPO法）が施行されてから、十数年が経過しました。NPO法施行と同時に設立した組織であればもうすでに、十年以上もの活動実績と経験の蓄積により運営が継続されていることになり、組織が成長し、持続期に入る過程の中で、組織を構成する人の顔ぶれや事業内容、組織そのものの構造等も変わりつつある、または変わってしまったという団体もあるのではないのでしょうか。さまざまな組織のターニングポイントで直面する課題に備えて、いかに組織の運営基盤・体制を整えて、組織のガバナンスやマネジメント行っていくかが重要な課題となります。また、その一方で、明確な組織基盤・運営体制をもちながらも意思決定等に課題を抱え、うまく事業成果が導き出せないことや成長戦略をもてないこと、また、日々の業務に追われ、事業の推進と呼びたいリスクマネジメントや人材育成に成果が出せていないことに課題を感じている団体も少なからず見受けられます。非営利組織における「ガバナンスとは何か」「多様なステークホルダーの意向をどのようにマネジメントしていくのか」を一般的な組織的正論から模索し、組織の基盤強化や適正さ（あるべき姿）を求めることは大切ですが、それだけでは答えを見出せない場合があります。組織と事業のバランスにおいて一般的な組織的正論では解決できない「団体固有」さらに、「非営利組織的ジレンマ」による独特な成長および戦略で、「独創的」あるいは「孤高」の組織運営により成果を生み出している団体の存在や価値も否定できないのです。本研修フォーラムでは、それぞれ団体固有の「価値や成果」を生み出しているガバナンス&マネジメント手法に学ぶとともに、組織としての苦境を乗り越えて新たな組織転換の中で、組織ミッションに準じた事業の成果を発揮しようとしている団体の「苦悩の経験値」に学ぶことで、組織の転換・変革に備え、組織の基盤強化に寄与することを目的とした研修フォーラムを開催します。本研修フォーラムは、AAC社会的認証システム―第三者認証（ステップ3）取得団体のCEO（チーフ・エグゼクティブ・オフィサー）等を中心にお迎えし、ご登壇いただきます。

□第1セッション

2012年12月22(土) 17:30-20:30

会場／京都市東山いきいき市民活動センター(京都市東山区花見小路通古門前上る巽町450番地)

□第2セッション

2012年12月23(日) 10:00-13:00

会場／京都市東山いきいき市民活動センター(第1セッションと同会場)

□北部特別セッション

2013年2月23(土) 14:00-16:45

会場／成美大学 4号館309号室セミナー教室(福知山市宇堀3370 西小谷ヶ丘)

【対象】本研修テーマに関心のある人

【定員】第1・2セッション共通50人／北部特別セッション30人(先着順)

【参加費】無料

【主催】一般財団法人社会的認証開発推進機構(AAC)【共催】山城・南丹・中丹・丹後各パートナーシップセンター

【後援】NPO法人きょうとNPOセンター／公益財団法人京都地域創造基金／一般財団法人地域公共人材開発機構(COLPU)／一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構

